

原著論文 (Article)

子どもの言語活動から見た幼児教育と初等教育の接続

— 韓国のヌリ課程の「意思疎通」領域に焦点をあてて —

Connection between Early Childhood Education and Elementary Education from the perspective of Language activities: With a focus on the communication domain for Nuri curriculum of Korea

朴 信永¹

PARK Shinyoung¹

摘 要

韓国では、1990年代から満5歳児と初等学校1年の教育の接続を問いはじめたものが、ヌリ課程の導入とともに加速化され、幼保一体化・共通化カリキュラムとして機能している。本稿では、韓国の5歳ヌリ課程の領域「意思疎通」と、初等学校1-2年の「国語」の内容の連続性を検討した結果、ほとんどの教育内容項目において発展的な拡大および深化が見られた。特に、2019年改訂のヌリ課程「意思疎通」領域では、初等学校1年「国語」の学習内容との連続性が保たれることを目的とするとともに、幼児の「聞いて話す」経験がそれぞれに分離されないことを考慮し、既存ヌリ課程の「聞く」と「話す」項目を、「聞くことと話すこと」に統合し提示している。本稿で全ての言語活動を取り上げることはできなかったが、ヌリ課程の解説書に示されている「聞いて話す」言語活動例と、それに関連した初等学校1年の国語活動を示した。

キーワード：ヌリ課程、初等学校教育課程、教育内容、連続性、意思疎通領域

Key words : nuri curriculum, elementary school curriculum, educational content, continuity and sequence, communication domain

1. ヌリ課程について

韓国では日本と同じく、就学前保育に関して、学校教育システムで満3歳からの幼稚園と、保健福祉システムで0歳からを対象とするオリニジップ（日本の保育所に該当する）の二つのトラックを有する（朴・伊藤, 2023）。かつてオリニジップは標準保育課程を基盤とし、幼稚園は幼児教育課程を基盤として教育課程が進んでいた。

少子化が加速化する中で、乳幼児期の発達的重要性に関する認識とともに、全ての幼児の公平なスタートの保証、保育と幼児教育に対する国の公的投資拡大に関する社会的要求の増加に伴い、2012年3月、5歳ヌリ課程を施行し、2013年3月から3、4歳に拡大した。ヌリ課程とは、幼児期の基本的素養や能力の育成を軸に、小学校1-2年生の創意性・人間性教育との連携を強化する内容を、国家の管理する一元的教育および保育として行うものである。満3-5歳の子どもの発達特性を考慮し、年齢別にどのような保育目標が達成されればよいに関する国家のガイドラインといえる。よって、オリニジップに通う子どもたちも、幼稚園に通う子

どもたちも、満3-5歳の子どもたちには同じレベルの教育ガイドラインに基づいた保育が提供される。特に、オリニジップの保育課程は0歳から通園可能であるため、0-1歳標準保育課程、2歳標準保育課程、3-5歳は、ヌリ課程が含まれた標準保育課程で構成される。

ヌリ課程の前文「第1部ヌリ課程の理解」のところには、ヌリ課程制定の背景が次のように示されている（韓国教育部・保健福祉部「改訂ヌリ課程解説書」, 2019）。

幼稚園教育課程は、1969年初めて国家レベルの教育課程として制定され、2007年改訂幼稚園教育課程へと続いた。一方、標準教育課程は、2007年初めて告示、施行された。以後、幼稚園では幼稚園教育課程を、オリニジップでは標準保育課程をもとに運営されたが、二元化された運営体制を整備する必要性が生じた。

2011年5月、幼児教育・保育に対する国の責任を強化するために、5歳児の幼児教育と保育を統合し、一元化した共通課程が告示された。以後、幼稚園とオリニジップに通う5歳児の学費・保育料支援を全世帯に拡大し、支援を

¹ 相山女学園大学教育学部
2023年10月10日受付

現実化するための政策を用意し関連法令を整備した。教育科学技術部と保健福祉部は、2011年9月5歳児ヌリ課程を‘共通課程’として制定・告示し、2012年3月から幼稚園とオリニジップに通う全ての5歳児に共通して施行した。

幼児教育・保育に対する国の責任が強化されるにつれ、ヌリ課程の適用対象を5歳から3-4歳児へ拡大した。2012年7月幼稚園とオリニジップに通う3-5歳児のための教育・保育を統合した‘共通課程’である「3-5歳年齢別ヌリ課程」が告示され、2013年3月から施行された。以後、2015年3月、[3-5歳年齢別ヌリ課程]はヌリ課程の運営時間を3-5時間から4-5時間に調整し改訂・告示された。

ヌリ課程は、オリニジップと幼稚園に通う幼児に、家庭の所得に関わらず保育費・幼児教育費を支援する政策の一環である。すなわち、二元化されている幼稚園教育課程とオリニジップの標準保育課程を一元化した国家レベルの共通課程として所得水準に関わらず、どの教育・保育機関に通っても同一の、良質の保育活動が提供される。

ただし、幼稚園は義務教育課程に含まれていない。すなわち、法的にはヌリ課程は義務教育に含まれないが、子どもがオリニジップや幼稚園に通うと、政府から保育・教育費の支援を受けることになる。保育・教育費の支援を受け、幼児・初等教育の連携が行われる点から、‘事実上、義務教育が幼児教育まで拡大された’との評価を受けている。

上記のように、ヌリ課程の特徴は、0-2歳の標準保育課程および幼児・初等教育課程との連携を強調している。満5歳のヌリ課程は、幼稚園やオリニジップで学んだ内容が初等学校（日本の小学校に当たる）1-2年へ自然につながっていくように関連内容を提供している。1990年代から満5歳児と初等学校1年の教育の連続性を問い始めていたものが、ヌリ課程の導入とともにより加速化され、幼保一体化・共通化カリキュラムとして機能しているのである。

本稿では、韓国の5歳児ヌリ課程の領域「意思疎通（日本の5領域中‘言葉’に当たる）」と、初等学校1-2年の「国語」の内容の連続性を検討する。具体的には、2019年改訂されたヌリ課程の「意思疎通」領域の教育内容と、2015年改訂初等教育課程1-2年「国語」の教育内容の連続性を分析的に検討し、幼小接続の改善に向けた変化を探る。

2. ヌリ課程の「教師用指針書」における「意思疎通」領域の下位項目

ヌリ課程は、「身体運動・健康」、「意思疎通」、「社会関係」、「芸術経験」、「自然探求」の五領域で構成されており、順に日本の五領域の、健康、言葉、人間関係、表現、環境に該当する。

本稿では、2019年改訂されたヌリ課程の解説書（韓国教育部・保健福祉部、2019）において、幼児の言語力向上のために、「意思疎通」領域の各項目で何をどのように示しているか紹介し、近年の動向について言及する。

「意思疎通」領域の目標および内容は、幼児が日常生活のなかで他の人のことばや話を聞いて話すことを楽しみ、身の周りのシンボルや標識を読むこと、文字に似たかたちで書いてみることに興味をもち、多様な本と物語を通して想像することを楽しむ内容で構成されている。

「意思疎通」領域の目標および教育内容は次の通りである（表1参照）。

改訂前の2012ヌリ課程（韓国教育部・保健福祉部、2012）では、意思疎通領域の分類は、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つに分けられていた。「聞く」に関して、「単語と文章を聞いて理解する」では、「幼児が発音をよりよく区別して聞いて、似たような発音を少しずつ区別できる」という内容が含まれており、日常生活および様々な状況に関連した単語と文章を聞いて、幼児がその単語と文章が表す意味を理解することがねらいとなっている。具体的には、「単語の発音に関心をもち、似ている発音を聞いて区別する」と、「様々な単語と文章を聞いて意味を理解する」が示されている。この部分について教師用指針書には、「指導指針および留意点」と「年齢別保育活動」の例示がある。次は、「指導指針および留意点」の一部である。

指導指針および留意点

- ・ 韻律のある単語を活用した言語遊び、しりとりなどに満5歳児は喜んで参加しようとする。言語遊びには特別な教具などがなくても様々な活動と活動の間で楽しむことができる。お誕生日の友達の名前で始めて、しりとりなどをすると、幼児は単語の分節された発音に注意を払うようになる。
- ・ カードで新しい単語を覚えることや、学習帳のかたちで単語や文章を習うことなどは、日常生活、直接的な経験と離れた、暗記だけを強調するため、満3-5歳児の発達に相応しくない。

「年齢別活動」の例としては、「単語の発音を注意深く聞くこと」と、「単語と文章を聞いて、意味を理解すること」に関する年齢別の事例、遊びの内容、その写真が掲載されている。このような教師用指針書に掲載されている工夫および開発の背景には、それまでに初等学校（日本の小学校に当たる）以上の学習指導要領と違って明確な記述や遊びの例示がされてこなかった幼児教育課程に対する批判があったとされる。

一方、2019改訂ヌリ課程では、初等学校1年「国語」の学習内容との連続性が保たれることを目的とするとともに、幼児の「聞いて話す経験」がそれぞれに分離されないことを考慮し、既存ヌリ課程の「聞く」と「話す」項目を、「聞く

表1. 5歳ヌリ課程の領域「意思疎通」(韓国教育部・保健福祉部, 2019)

目標	
日常生活に必要な意思疎通能力と想像力を身につける。 1) 日常生活で聞いて話すことを楽しむ。 2) 読むことと書くことに関心をもつ。 3) 本や物語を通して想像することを楽しむ。	
分類: 目標	教育内容
聞くことと話すこと : 日常生活で聞いて話すことを楽しむ	話や物語に関心をもって聞く
	自身の経験, 気持ち, 思ったことを話す
	状況にあう言葉を使って話す
	相手の話を聞いて, 関連付けて話す
	正しい態度で聞いて話す
読み書きに関心をもつこと : 読むことと書くことに関心をもつ	よい言葉を使う
	話と文字の関係に関心をもつ
	周りの象徴(標識)や文字等を読むことに関心をもつ
	自身の思いを文字に似た形で表現する
本と物語を楽しむこと : 本と物語を通して想像することを楽しむ	本に興味をもち, 想像することを楽しむ
	童話, 童詩を通して言葉の面白みを感じる
	言葉遊びとストーリー作りを楽しむ

* () は筆者の追記

ことと話すこと」に統合し提示している。同様の理由により、既存ヌリ課程の「読む」と「書く」項目が、「読むことと書くことに関心をもつ」に統合し提示された。

また、2012年施行の5歳ヌリ課程の「意思疎通」領域に比べると、幼児の経験との連続線上に5つの領域の保育内容を統合する保育方法を提案している(教育科学技術部, 2017)。具体的には、「意思疎通」領域の目標および内容の解説の続きとして、「意思疎通領域の総合的理解」の例示がある。たとえば、「言葉あそび—終わりになく続く子どもたちの話—」に関連するエピソードが、子どもたちの写真とともに会話が台本形式で書かれている。そのなかで子ども自身の想像力で作られた話をみんなで聞く場面では、話にリズムとアクセントをつけて歌うようになり、聞く側の子どもたちもさらに話を膨らませたり、質問をしたり、リアクションをとったりする。このようなエピソードに対して、「身体運動・健康」領域、「意思疎通」領域、「社会関係」領域、「芸術経験」領域別に予想される子どもの様子と、保育活動の例が示されている。

3. 初等教育「国語」の教育課程

2015改訂初等教育課程1-2年国語の教育内容は(韓国教育部, 2015)、「聞く・話す」、「読む」、「書く」、「文法」、「文学」の5つの領域からなっている。各領域は、(1)学習要素、(2)成就基準の解説、(3)教授・学習方法および留意事項、(4)評価方法および留意事項が提示されている。表2は、1-2年国語の目標および各領域の成就基準を、表3は、各領域の学習要素を表している。

初等学校1-2年国語の「聞く・話す」領域の成就基準は、学習者が学校生活に適応しながら他の人との相互作用に必要な基礎的な「聞く・話す」能力を身につけることに重点をおいている。すなわち、他の人の話を傾聴し、自分の感情や経験などを自信をもって話す活動をもとに「聞く・話す」よい習慣と態度を形成するようにしている。

また、成就基準の提示順は、教授・学習の順を表しているわけではない。表3の学習要素は、成就基準と関連した内容の範囲と水準を明瞭に示すためのものであり、多様な教授・学習の状況に合わせて再構成することが可能である。全ての成就基準の内容は、学習者の要求とレベルによって統合的な観点で学習の系列性を考慮し創意的に再構成し活用することが可能である。

4. ヌリ課程「意思疎通」領域と初等教育「国語」の教育課程との接続

2015年改定初等教育課程では、国語の学習単元を5歳児ヌリ課程の「意思疎通」領域の保育内容と同じになるように修正し、ヌリ課程との連続性が保たれることを目的とした(韓国教育部, 2017)。5歳ヌリ課程「意思疎通」領域と、初等教育1-2年「国語」の教育内容の連続性を確認するために表4の通り、「意思疎通」領域の教育内容に関連した「国語」の教育内容を位置づけてみた(表1, 2参照)。

連続性概念の定義は研究者によって様々であるが、ほとんどがTyler (1949)の継続性と系列性を含む垂直的な関係を意味する。韓国幼児教育学会(1996)では、連続性とは、学年、学校、教科群の間に継続性、系列性、統合性をもつ関係であ

表 2. 2015 改定初等教育課程 1-2 年「国語」(韓国教育部, 2015)

目標	
就学前の国語に関する経験を発展させ、日常生活と学習に必要な基礎リテラシーをもって、話し言葉と書き言葉に興味をもつ。	
分類	成就基準 (教育内容)
聞く・話す	1) 状況に相応しい挨拶を取り交わす。 2) 事が起こった順序を考えながら聞いて話す。 3) 自分自身の感情を表現し会話をする。 4) 聞く側を見つめながら、望ましい姿勢で自信をもって話す。 5) 話し手と話す内容に集中して聞く。 6) 丁寧に望ましい言葉を使い話す態度をもつ。
読む	1) 文字、単語、文章を声に出して読む。 2) 文章と文を適切に間をあけて読む。 3) 文を読んで、主要内容を確認する。 4) 文を読み、人物の立場と気持ちを汲み取る。 5) 読むことに興味をもち、楽しみながら読む態度をもつ。
書く	1) 文字を正しく書く。 2) 自分自身の思いを文章で表す。 3) 周りの人や物について短い文を書く。 4) 印象深かったことや、経験したことに関する思いや気持ちを書く。 5) 書くことに興味をもち、楽しみながら書く態度をもつ。
文法	1) ハングルの母音子音の名前と、その音を理解し正確に発音し書く。 2) 音とその表記が違う場合があることを理解し、単語を正しく読み書く。 3) 文章によって適切な符号を使う。 4) 文字、単語、文章に関心をもって調べ、興味をもつ。
文学	1) 気持ちと雰囲気を活かし、絵本や詩、歌、短い物語を聞かせたり聞く。 2) 人物の姿、行動、気持ちを想像しながら、絵本や詩、歌、物語を鑑賞する。 3) 様々なことば遊びを通して、話の面白さを感じる。 4) 自分自身の思いや経験したことを詩や歌などで表現する。 5) 詩や歌、物語に興味をもつ。

* () は筆者の追記

表 3. 2015 改定初等教育課程 1-2 年「国語」の学習要素 (韓国教育部, 2015)

分類	学習要素
聞く・話す	挨拶の言葉を取り交わす／ことの順序を理解する／会話をする (感情表現)／自信をもって話す／よい姿勢で話す／集中して聞く／丁寧に望ましい言葉を使う
読む	声に出して正確に読む／正しく間を開けて読む／主要内容を確認する／人物の立場と気持ちを汲み取る／読むことに興味をもつ
書く	文字を正確に書く／文字を丁寧に書く／完成文を書く／短い文を書く／経験に関する思いや気持ちを書く／書くことに興味をもつ
文法	ハングルの母音・子音の名前と発音がわかる／音と表記の関係を理解する／文章の符号を正しく使う／文字・単語・文章に興味をもつ
文学	作品の朗読・朗誦する (気持ちと雰囲気)／人物の姿・行動・気持ちを想像する／言葉の面白さを感じる／思い・気持ち・経験を表現する／文学に興味をもつ

ると定義している。金 (2020) では、幼児教育と初等学校教育の言語教育課程の連続性を分析するために、連続の形態による分析基準を作成し、発展的連続性には拡大深化学習が、部分的連続性には格差・反復学習が含まれるとした。例えば、5 歳ヌリ課程「意思疎通」領域、「聞くことと話すこと」の「話や物語に関心をもって聞く」は、初等教育課程 1-2 年「国語」の「事が起こった順序を考えながら聞いて話す」へと、その教育内容の材料や活動が発展的に拡大・深化されているといえる。他にも、ヌリ課程の「話と文字の関係に関心をもつ」については、初等教育課程 1-2 年「国語」の「読むことや書

くことに関する興味や態度」へと広がり、「ハングルの子音母音の理解とその表記」へとつながっていくことがわかる。

5 歳ヌリ課程の「意思疎通」領域の「聞くことと話すこと」に関する具体的な保育実践については、2019 改定ヌリ課程解説書 (韓国教育部・保健福祉部, 2019) より子どもの言語活動を抜粋した。「聞くことと話すこと」に関する 5 歳児の経験の実際について以下の通り、子どもたちが相手に自分の経験や気持ち、思ったことを自由に話す活動の例と、時と場所、相手に合う単語と文章を選んで話す活動の例が示されている。

表 4. 5 歳ヌリ課程「意思疎通」領域と初等教育課程 1-2 年「国語」の教育内容の連続性

	5 歳ヌリ課程「意思疎通」領域の教育内容	初等教育課程 1-2 年「国語」の教育内容
聞くことと話すこと	話や物語に関心をもって聞く	2) 事が起こった順序を考えながら聞いて話す
	自身の経験、気持ち、思ったことを話す	3) 自分自身の感情を表現し会話をする
	状況にあう言葉を使って話す	1) 状況に相応しい挨拶を取り交わす
	相手の話を聞いて、関連付けて話す	5) 話し手と話す内容に集中して聞く
	正しい態度で聞いて話す	4) 聞く側を見つめながら、望ましい姿勢で自信をもって話す
読むことと書くことに関心をもつ	よい言葉を使う	6) 丁寧に望ましい言葉を使い話す態度をもつ
	話と文字の関係に関心をもつ	読 5) 読むことに興味をもち、楽しみながら読む態度をもつ 書 5) 書くことに興味をもち、楽しみながら書く態度をもつ 文法 1) ハングルの母音子音の名前と、その音を理解し正確に発音し書く 文法 2) 音とその表記が違う場合があることを理解し、単語を正しく読み書く
	周りの象徴（標識）や文字等を読むことに関心をもつ	読 1) 文字、単語、文章を声に出して読む 読 2) 文章と文を適切に間をあけて読む 文法 4) 文字、単語、文章に関心をもって調べ、興味をもつ
	自身の思いを文字に似た形で表現する	書 1) 文字を正しく書く 書 2) 自分自身の思いを文章で表す 書 3) 周りの人や物について短い文を書く 書 4) 印象深かったことや、経験したことに関する思いや気持ちを書く 文法 3) 文章によって適切な符号を使う
	本に興味をもち、想像することを楽しむ	読 3) 文を読んで、主要内容を確認する 読 4) 文を読み、人物の立場と気持ちを汲み取る 文学 1) 気持ちと雰囲気を活かし、絵本や詩、歌、短い物語を聞かせたり聞く 文学 2) 人物の姿、行動、気持ちを想像しながら、絵本や詩、歌、物語を鑑賞する
本と物語を楽しむ	童話、童詩を通して言葉の面白みを感じる	文学 3) 様々なことば遊びを通して、話の面白さを感じる 文学 5) 詩や歌、物語に興味をもつ
	言葉遊びとストーリー作りを楽しむ	文学 4) 自分自身の思いや経験したことを詩や歌などで表現する

子どもが友達に動物園に遊びに行ったことを楽しく話している。トラの話をするときは、大きく強い声を、サルの話をするときは、声を尖らせる。

子どもたちが病院ごっこをしている。医者役の一人が“どちらが痛いですか”と聞くと、患者役の子どもが“先生、お腹がとても痛いです”と言う。医者役の子どもの診察後、看護師役の子どもは“こちらに来てください。注射をうちます”と言う。

上記の言語活動に関連した初等学校 1 年の国語活動は次の通りである。

【やさしく挨拶しましょう】

目標：挨拶するときのこころもちを知る／適切な挨拶の言葉を知る／状況に合う挨拶の言葉を使う／適切な挨拶をする

活動例：アンニョン（筆者の追記：日本語のおはよう、こんにちは、さようならの意味）という挨拶の歌を歌う。挨拶した経験を言ってみる。絵本「挨拶しようか、やめようか」を読む。「挨拶の歌」を歌う。

【思ったことを表しましょう】

目標：絵を見て文章をつくる／文章で話す／文章を書いて読む（誰が、何を、します）／文章を声に出して読む

活動例：物語や童話、詩などを題材にした絵を見て文章を作成し、声に出して読んでみる。

5. おわりに

韓国における幼小接続スタートカリキュラムは、日本の幼小接続スタートカリキュラム同様、5 歳児の幼保一体カリキュラムとして始まった（金，2016）。すなわち、教育の普遍性や均等性を図ることを基本にした「ヌリ課程」が、韓国の幼小接続スタートカリキュラムとして制定されたのである。

本稿では、5 歳ヌリ課程の「意思疎通」領域と初等教育課程 1-2 年の「国語」の教育内容の連続性を検討し、ほとんどの項目において発展的な拡大および深化を見つめることができた。金（2020）では、2012 年 3 月から各オリニジップと幼稚園で施行された 5 歳ヌリ課程の「意思疎通」領域の細部内容と、2015 年改定された初等教育課程「国語」の教育内容の連続性を分析している。ヌリ課程では、基本的言語能力に関する理解と関心をもつようにし、初等教育では、言語能力をもとにした実質的な力量強化を重視している点で違いがあり、連続しているとまとめている。金（2020）の研究と本研究を較べると改訂後のヌリ課程では、言語教育におけるヌリ課程と初等教育の連続性がさらに改善されていると考え

られた。

韓国のヌリ課程では、解説書とともに教師用指導書が発行されており、保育の各領域の目標を達成するための遊びや活動に関するきめ細かい指導指針および留意点、遊びの指導例が示されている。韓国では、学習を重視する社会的雰囲気の中で、幼児教育機関における実質的な文字言語指導が幼児教育課程上のそれを上回ってしまう可能性が疑われ、幼児の発達特性に合わせた保育内容を考慮すべく、「意思疎通」領域で目指している指導範囲をより明確に示す必要性があったと思われる。

今後の課題としては、下記のような背景により保育・幼児教育と初等教育の連続性をさらに確実なものにするためにこれから韓国で実施される予定である幼保一元化、すなわち、乳幼児教育・保育統合について稿を改めて追究していきたい。

保育料・幼児教育費の家計負担が少子化を深刻化させている要因として挙げられ、国の保育料・幼児教育費支援への要求は強く、韓国では、2013年から所得とは関係なく保育料・幼児教育費が支給されている。しかし、近年、オリニジップに入所できない待機児童が増え、いわゆる「保育難」が解消されない限り、少子化は止まらなると官民ともに危機感を表している。そこで、2022年12月29日、韓国教育部は、「乳幼児教育・保育統合推進委員会」の設置・運営に関する規定案を発表した。2023年9月には、待機児童の大きな原因の一つとして、乳幼児保育・教育が保育施設であるオリニジップと幼児教育機関である幼稚園に分かれていることを取り上げ、1995年から議論が続いていた幼保一体化を本格的に進めると発表した（韓国教育部，2023）。韓国政府は、乳幼児教育・保育統合を通して、幼稚園とオリニジップに教育と保育が分かれていることで発生する非効率と格差を解消し、乳幼児から連続性のある政策を推進し、それらによって初等教育課程との接続性も強化することが可能であると説明している。オリニジップ保育と幼稚園教育の内容面ではすでに2012年から3-5歳児ヌリ課程が幼稚園とオリニジップ両方の現場で実践されているものの、法的には全く違う機関であるということ、園の設備、教師の資格基準や養成課程などで様々な不一致が存在し、保育の質にも影響を及ぼしているのである。その詳細については、今後さらに検討していきたい。

謝 辞

本稿は、日本乳幼児教育学会第30回大会自主シンポジウム「言葉と国語科、言語活動を観点とした円滑な幼小接続」での話題提供（2020年11月15日）を改編執筆したものである。

大島光代、新井美保子、伊藤一統、伊藤博美の各先生方に厚く感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 韓国幼児教育学会（1996）幼児教育史 ソウル：韓国史研究社
- 韓国教育部・保健福祉部（2012）5歳年齢別ヌリ課程教師用指針書 韓国教育部・保健福祉部
- 韓国教育部・保健福祉部（2015）3-5歳年齢別ヌリ課程教師用指針書 韓国教育部・保健福祉部
- 韓国教育部（2015）初等中等学校教育課程総論および教科教育課程 韓国教育部 <https://www.moe.go.kr/boardCnts/viewRenew.do?boardID=141&lev=0&statusYN=C&s=moe&m=0404&opType=N&boardSeq=60747>（2023年9月閲覧）
- 韓国教育部・保健福祉部（2019）2019改訂ヌリ課程解説書 韓国教育部・保健福祉部 <https://www.moe.go.kr/boardCnts/viewRenew.do?boardID=312&boardSeq=79419&lev=0&searchType=null&statusYN=W&page=1&s=moe&m=0301&opType=N>（2023年9月閲覧）
- 韓国教育部（2022）乳幼児教育・保育統合推進委員会および推進団の設置・運営に関する規定制定の行政予告 韓国教育部（2022年12月29日）<https://www.moe.go.kr/boardCnts/viewRenew.do?boardID=141&boardSeq=93520&lev=0&searchType=null&statusYN=W&page=8&s=moe&m=040401&opType=N>（2023年9月閲覧）
- 韓国教育部（2023）教育・保育統合のための「政府組織法」改定趣旨および説明資料 韓国教育部（2023年9月21日）<https://www.moe.go.kr/boardCnts/viewRenew.do?boardID=72779&boardSeq=96446&lev=0&searchType=null&statusYN=W&page=1&s=moe&m=0317&opType=N>（2023年9月閲覧）
- キムミンジ（2016）幼小接続スタートカリキュラムの一考察—韓国における現況と課題—聖徳大学研究紀要聖徳大学短期大学部，49，81-88
- キムジョンヒ（2020）幼初言語教育課程の連続分析：5歳ヌリ課程「意思疎通」領域と2015改訂初等教育課程1-2年の言語教育を中心に 学習者中心教科教育研究，20(1)，587-605
- 朴信永・伊藤一統（2023）保育士の職業能力について—韓国の国家職務能力基準（NCS）の場合—椋山女学園大学教育学部紀要，16(1)，37-43
- Tyler, R. W. (1949) *Basic principles of curriculum and instruction*. The University of Chicago Press